

# 第55回 日本小児循環器学会総会・学術集会

住友 直方 埼玉医科大学国際医療センター小児心臓科教授

2019年6月27～29日 札幌コンベンションセンター

第55回日本小児循環器学会総会・学術集会を2019年6月27日(木)～29日(土), 札幌コンベンションセンターにおいて開催した(写真1)。メインテーマは「collaboration for the future」(未来のための協調)とさせていただいた。参加者は医師1,319名, 多領域専門職214名, 学生67名, 医療機器メーカー・製薬会社108名の合計1,652名であった。

会長講演は「心電図の発見から不整脈治療まで」と題して, Einthovenによる心電図の発見, Wilsonによる心電図誘導法の開発, 田原淳による刺激伝導系の発見, ScherlagによるヒトのHis束心電図の記録, Holterによる心電計の開発, カテーテルアブレーションの歴史などを話させていただいた(写真2)。

海外招請講演としてはチェコ・カレル大学のJan Janoušek先生に「the journey of cardiac resynchroniza-

tion therapy in congenital heart disease : from immediate hemodynamic improvement to long-term benefit」(写真3), 米国・ミシガン大学のRichard G. Ohye先生に「surgical management of the borderline left ventricle in neonates and infants」, TSPC-JSPCCS joint sessionとして台湾・国立台湾大学のJou-Kou Wang先生に「transcatheter closure of perimembranous ventricular septal defect : current status in Taiwan」(写真4)とい



写真1 学会ポスター



写真2 会長講演



写真3 Janoušek先生



写真4 Wang先生の講演風景